

テクノファNEWS

ニュース・ダイジェスト

◆◆ ISO9001改訂作業の現状と附属書SL：JABシンポジウムにおける中條教授基調講演

日本適合性認定協会は2013年3月5日に「JABマネジメントシステムシンポジウム」を有楽町にて開催し、約400名が聴講した。複数のマネジメントシステム規格の効率的活用が組織及び認証制度の課題となっている状況を鑑み、「マネジメントシステムにおける最近の課題とその対応～ISO9001改訂、複数マネジメントシステム規格、Annex SLを中心に～」をメインテーマに、組織におけるマネジメントシステムのあり方を検討した。

中央大学 中條教授は基調講演において、ISO9001改訂作業の現状と附属書SLについて説明を行った。その中で氏は、制定から25年を経たISO9001の功罪を振り返りながら、現在進められているISO9001改訂作業の概要を解説した。改訂では「製品の提供能力に関する信頼を向上させる・顧客を満足させる組織の能力を向上させるために、顧客のISO9001に基づくQMSについての信頼の向上」を目指していると説明。さらに、改訂時には附属書（Annex）SLを遵守することや、前回改訂時に反映できなかったコメントも検討されていると述べた。続いて、Annex SLはマネジメントシステム規格の整合化のために開発されたという背景の説明があり、その構造および適用ルールや、完全対応している実例としてのISO39001（道路交通安全マネジメントシステム）が紹介された。加えて、Annex SLの利点と欠点も示された。これらの動向を踏まえ、マネジメントシステムの確立・再構築に向けて我々がなすべきことは、各分野における固有技術、マネジメントシステム、認証制度の重要性をもとにした活動、それらの連携が不可欠であると述べた。

<http://www.jabor.jp/news/2013/040500.html>

◆◆ ISO「製品の安全性及びリコール」に関する新規格

製品に関する不適切な安全情報が多くの傷害問題に関連していることから、リコールに関する実用的なプロセスを製品の設計段階で考え出す必要があるとした新規格、ISO10377:2013 消費者製品の安全性—供給者に関するガイドライン及び ISO10393:2013 消費者製品のリコール—供給者に関するガイドラインが発行された。これらのガイド規格は製品を供給する組織の役に立ち、彼らが自分たちの製品安全プログラムをより良く管理するための指針を提供することができる。

http://www.iso.org/iso/home/news_index/news_archive/news.htm?refid=Ref1726

【ニュース】 ニュース・ダイジェスト、テクノファ最新ニュース … 1～3

【講演】 「不確実な社会を生き抜くキャリア開発」

立正大学心理学部教授 小澤康司氏 … 4～8

◆◆ 再生可能エネルギー発電設備の導入状況

資源エネルギー庁は、平成25年1月末時点の再生可能エネルギー発電設備の導入状況を取りまとめ公表した。それによると、平成24年4月から平成25年1月における再生可能エネルギー発電設備の導入量は、139.4万kWとなり（原子力発電約1.5機分）、そのうち、9割以上が太陽光発電となっている。

<2012年度における再生可能エネルギー発電設備の導入状況（1月末時点）>

再生可能エネルギー 発電設備	平成24年4月～平成25年1月末までに運転開始した設備容量
太陽光(住宅)	102.3万kW(4～6月 30.0万kW)
太陽光(非住宅)	30.6万kW(4～6月 0.2万kW)
風力	3.7万kW(4～6月 0万kW)
中小水力(1000kW以上)	0.1万kW(4～6月 0.1万kW)
中小水力(1000kW未満)	0.2万kW(4～6月 0.1万kW)
バイオマス	2.5万kW*(4～6月 0.6万kW)
地熱	0万kW
合計	139.4万kW

<http://www.meti.go.jp/press/2013/04/20130416002/20130416002.pdf>

◆◆ 2011年度（平成23年度）の温室効果ガス排出量（確定値）

環境省では、地球温暖化対策の推進に関する法律等に基づき、2011年度（平成23年度）の温室効果ガス排出量（確定値）を取りまとめた。それによると、2011年度の我が国の温室効果ガスの総排出量（確定値）は、13億800万トンで、これは基準年比3.7%の増加となっており、2010年度の総排出量と比べると、火力発電の増加等によって、4.0%の増加となっている。その要因としては、東日本大震災の影響等により製造業の生産量が減少する一方、火力発電の増加によって化石燃料消費量が増加したことなどが挙げられる。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16547>

◆◆ 気候変動の観測・予測・影響評価に関する統合レポート「日本の気候変動とその影響(2012年度版)」

文部科学省、気象庁、環境省は、日本を対象とした気候変動の観測・予測・影響評価に関する知見を取りまとめたレポート「日本の気候変動とその影響（2012年度版）」を作成し、レポートの概要をまとめたパンフレットと合わせて公表した。レポートの主なポイントは次の通り。

(1) 観測結果（第2章第1節）

日本の平均気温は長期的に上昇しており、猛暑日や熱帯夜の日数も増加している。また、大雨の日数や強い雨の頻度は増加傾向にある。

(2) 将来予測（第2章第2節）

日本の平均気温はさらに上昇するとともに、その上昇幅は世界平均を上回ると予測される。また、強い雨の頻度の増加が予測される一方で、無降水日数もほとんどの地域で増加すると予測されている。

(3) 影響（第3章）

前回の統合レポートを公表した後の研究調査の進歩により、気候変動の影響の可能性のある様々な事象が明らかになるとともに、水資源・水災害や自然生態系等において、より具体的な将来の影響評価についてまとめることが可能となった。

(4) 適応（第4章）

気候変動による人間社会等への影響をできるだけ小さくする「適応」について、日本における現状と課題、今後の取組について解説。

<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=16548>

テクノファ最新ニュース

「内閣府国家戦略・プロフェッショナル検定」

■ カーボンマネジャー キャリア段位制度 スタート

カーボンマネジャーとは、「省エネ分野」と「温室効果ガス（GHG）排出削減・吸収分野」の双方の知識・技能を体系的に身につけた、活躍が期待される新しい人材。

テクノファは、カーボンマネジャー キャリア段位制度事務局である（一社）産業環境管理協会（EMA）から研修機関として承認されています。

両分野の研修を修了し、試験に合格するとカーボンマネジャーレベル1やレベル2に登録でき、自らの能力を社会に対し、客観的にアピールできます。※レベル3・4は業務実績も必要です。

レベル1には便利なeラーニングコースもあります。

<http://www.technofer.co.jp/others/carbonmanager.html>

■ CSRを事業に統合する為のファーストステップ「CSR入門」コース開催

～欧州の先進事例から戦略的CSRを学ぶ～（SE36）

CSRは、CSR活動＝慈善事業ではなく、CSRの中には社会・環境・倫理・人権・労働慣行・製品・サプライチェーンなど幅広い考え方に、リスクを回避し、組織が存続していくヒントが多く隠れています。つまり、決して経済的な事業活動と乖離しているわけではありません。当コースでは、戦略的にCSR活動ができるようになるための第一歩を踏み出していただくための考え方を提供いたします。欧州先進企業の事例も多数紹介します。CSR専門部署の方だけでなく、人材開発、マーケティング、広報、コミュニケーション担当部門の方もぜひご利用ください。

● 日程：川 崎 6月20日(木) 10:00～17:00

● 受講料：19,800円(税込) テクノファ会員 17,820円(税込)

● 講師：下田屋 毅(しもたや たけし) Sustainavision Ltd (サステナビジョン株式会社) 代表取締役 環境プランナーER

<http://www.technofer.co.jp/training/spot/se36.html>

WHAT'S NEW!

第3回 テクノファ・フォーラム大阪

<参加料:無料>

【日程】2013年6月27日(木) 14:00～18:00

【会場】エル・おおさか(大阪府立労働センター) 南館 南ホール

地下鉄谷町線 天満橋駅
地下鉄堺筋線 北浜駅各徒歩5分

【定員】200名(先着順)

【講演者及びテーマ】

1. 「上手な省エネ対策の見つけ方～現場は“気づき”を待っている～」 蛭井 浩明氏
2. 「リスクマネジメントとしてのメンタルヘルスケア～臨床心理士が伝えたい、組織が生き残るためのメンタルケア～」 井本 恵章氏
3. 「IMS共通テキスト(附属書SL)5つのキーワードとマネジメントシステムの本質」
(株)テクノファ 取締役会長 平林 良人

★お申し込みは弊社ホームページから

マネジメントシステム統合のステップと 運営管理のポイント(SQ37)

MS規格共通テキスト(Annex SL)により、組織のマネジメントシステムは 総合的な(統合)マネジメントシステムへの再構築が可能となります。当セミナーでは、マネジメントシステムの統合の目的から運営管理まで、8つのステップにわけて解説します。

日 程：川 崎 6月13日(木) 13:30～16:30

大 阪 6月27日(木) 10:00～13:00

福 岡 7月31日(水) 13:30～16:30

名古屋 8月7日(水) 13:30～16:30

受講料：9,800円(税込/テクノファ会員8,820円)

講 師：徳丸 典秀氏

廃棄物管理業(マニフェスト)実務者コース ～条文解説とその実務～(SE37)

廃棄物管理の重要業務の1つである“マニフェスト運用”について、演習を通し、実務に役立つ知識を身につけていただきます。

日 程：名古屋 7月17日(水) 13:30～16:45(予定)

川 崎 10月18日(金) 13:30～16:45(予定)

受講料：9,800円(税込/会員8,820円)

講 師：平田 耕一氏

不確実な社会を生き抜くキャリア開発

立正大学心理学部教授 小澤 康司氏

本稿は昨年12月東京大井町きゅりあんで開催された第19回テクノファ年次フォーラムから立正大学小澤教授の講演を紹介します。

皆さんこんにちは。

私は元々エンジニアとして電気工学科を専攻し、自動車関連部品の開発に10年ほど従事しました。その後、人に関わる仕事をしたいと思い大学院で心理学を学び直し現在に至るといふ経歴を持っており、ものづくりに志を持って取組んできた時期があります。

私は今、被害者支援とキャリア開発の二つの領域で研究活動をしています。被害者支援は1992年台湾の地震に対し文部科学省から派遣されたことに始まり、ニューヨークテロ事件、スマトラ沖津波、世界各地の日本人学校などへの子どもの支援活動に当たってきました。現在も岩手県の釜石市、大槌町の学校への支援活動を継続しております。

もう一方、企業に在職した経験から、個人が元気に働いていくための、カウンセリング・心理療法・メンタルヘルスの問題・キャリア開発などをテーマに研究活動をしてきました。

最近この二つの領域が私の中で同じであるように感じています。生きていく社会が大きく変化する中で誰もが危機に遭遇し、その中を頑張っとう生き抜くのか、それがキャリア開発のテーマとして非常に重要になると思い始めたからです。

今日はこの不確実な社会、変化する社会を生きるためにどういふことを考えていくべきか、お話しさせていただきます。

環境問題を含め世界、及び日本社会は変化しています。この文明社会をドラッカーは知識社会と呼んでいます。それを手がかりに、変化し続ける社会を生きていくための考え方についてキャリア開発の視点からお話ししたいと思います。

■人類（ホモサピエンス）繁栄の時代

ホモサピエンス以前に誕生した生命は何億年という時間経過の中で地球環境に適応するために、全て遺伝子の変化によって生物として進化を続けてきましたが、高度な進化を遂げたホモサピエ



スは道具や言葉を使い協同生活を始めます。

それらが蓄積され文明・文化を形成し、環境を自ら都合よく変化させて繁栄していきます。特に産業革命以降は機械による大量生産が可能になり更に科学技術が発展します。

こうして生活環境を変化させながらエネルギーを大量に消費する豊かな生活を基盤に人口が爆発的に増加します。そして2011年には70億人に達しています。2050年、40年後には92億人になると予測されていますが、誰にも止めようがなく続くと思われま

地球環境の変化

世界人口の増加と経済活動による地球大気の変化

温室効果ガスの増加

→地球の温暖化(平均気温の上昇)

→気候の変動

→地球の海の水位が上昇→沿岸部の水没

→ハリケーン・水害/熱波・砂漠化

→生物生息体系が変化→感染症の拡大

自然災害の増加傾向

それに伴い大きな問題となってきたのが地球の温暖化です。経済活動により地球の大気に変化し気候の変動が進んでいます。海面上昇、異常気象

など様々な問題が起き、生物の生息体系が変化しています。地球は大气に覆われて生物に適した環境になっていますが、二酸化炭素増加に伴い大気温度が2005年で0.8℃上昇しており、このままでは2050年に2℃位上がると予測されています。大変なのは海水温も上がってきており、冷やす術がないといわれています。こうした要因により大洪水がアジア圏で増加し、降雨が少ないため、熱波による山林火災も起きています。

他にも自然災害として世界各地で地震が発生し、東日本においても大震災が起きました。そして福島原発事故が発生し、エネルギー政策の見直しが議論される事態になっています。今後、南海トラフ地震も懸念され甚大な津波の被害が予測されています。

■社会の変遷

人口が92億に達すれば食糧問題が出てきます。病原菌を媒介する生物の生息範囲が変わり様々な感染症の拡大も心配されます。

そして、90億人超の人類がひとつの地球で平和に暮らしていければよいのですが、テロ事件・民族・宗教紛争が増加する傾向があります。

社会の変遷

- ・自然と共に生きる社会
自給自足 物々交換 生きる糧は自分で
- ・農業社会
農耕生活 定住・貯蓄⇒富・階級社会
- ・工業化社会
大量生産 消費<生産 科学技術・知識社会
- ・高度情報化社会
技術革新・グローバル化・国際競争激化
コントロールできないマネー・価値観の多様化
- ・地球の温暖化
⇒不確実性の時代

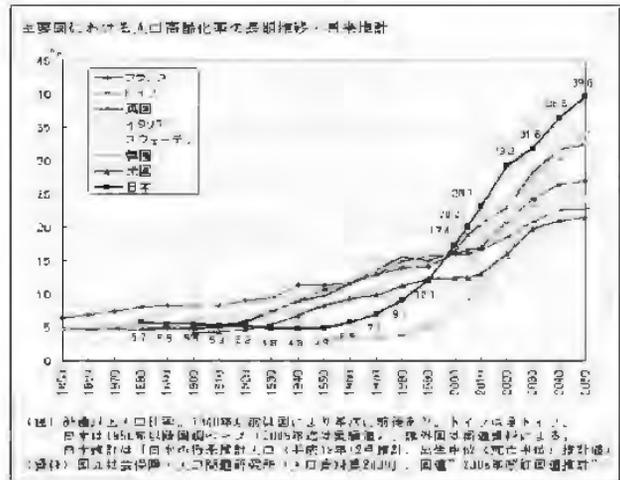
私達はホモサピエンスになってから言葉を使い知識・知恵を蓄え文明を築き、自然と共生し農耕生活で定住するようになりました。豪族が富と権力を支配した時代から科学技術が発達した世の中に移行すると、技術や知識を使える人が世の中を動かすこととなります。

そして私達は豊かな生活を手に入れるのですが、地球全体の環境変化まで誰も想定することなく発展してきました。現在は高度情報化社会になり地球がひとつになってきました。物流・情報・金融など特に経済的な活動に際しては短期的な利潤追求のために情報をコントロールするような状況になってきているのではないかと思う部分も最近気になっているところです。考え方の対立なども解決すべき問題として現れていると思います。

このように、私達はここに来て今まで体験したことのない地球規模の様々な問題に直面し、変化が加速しているため、若い頃に学んだ技術や知識が生涯通じる時代ではなくなっています。誰もが将来を見通せないような不確実な時代に来ています。

■進行する少子高齢化

そして人口が爆発的に増加していますが、その要因のひとつに寿命の延びがあり、特に先進国では少子高齢化が進んでいます。



2050年に向けて世界の高齢化が進んでいる状況ですが、途上国でも同様です。日本では2010年では65歳が23.1%で4人に1人の割合ですが2050年40年後には約40%、10人に4人は65歳以上になることが予測されます。

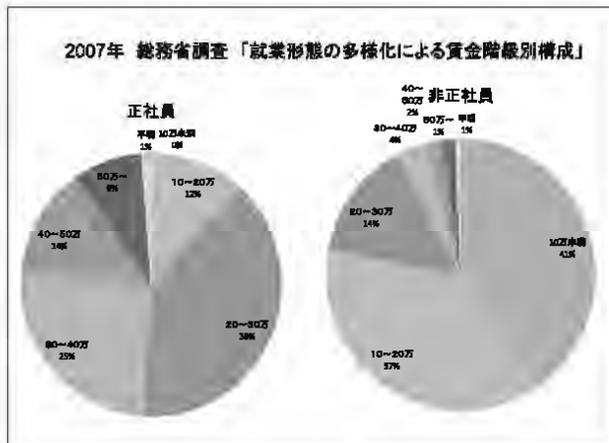
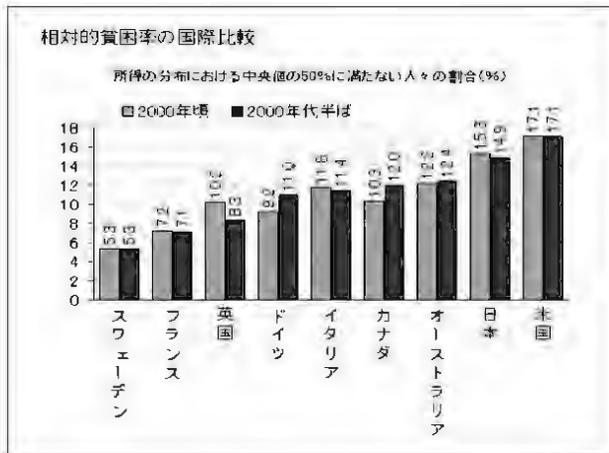
日本は少子高齢化のピークは既に過ぎて、今後社会構造・生活スタイルは大きく変わり、働き方も多様化すると考えられます。そして高度情報化社会がますます進みます。今までは親の職業を継げばよかったし、若い時に身に付けた知識で一生仕事ができただけでしたが、今後は飛躍的に技術革新が進み変化する時代になります。企業も生き残りを賭けて新規開発を重ねているのです。

私達は変化に対応できなければ時代についていけなくなります。人生80から90年、複数のライフステージをどう生きていくのかという問題があります。

■働き方の変化・非正規雇用の増加

働き方が変化して非正規雇用が増えています。日本では全産業の3割が非正規といわれていますが特にサービス業・飲食業ではもっと多いですし、専門職の非正規雇用が進んでいます。法案が変わって5年間派遣社員を続けたら正規雇用にする法律が施行されることになっていますが、全体の非正規雇用の流れは大きく変わらず、こうした傾向は

続くと思われます。グローバル化している中、世界中で安い労働力や不十分な条件下での雇用があればこうした状況は続くように思います。



民主党政権で「相対的貧困率」という言葉が使われるようになりました。これは各国における所得の分布の中央値の50%に満たない人の割合における貧困層を表しています。日本はアメリカについて高いです。賃金格差を見ますと50歳代と30歳代の賃金比率では日本が高く1.7を超えています。相対的貧困率も高いことから、日本では若い人の賃金が抑えられ、50歳代以上が割と裕福であるといえます。

ところが40年後には働く人達の6割以上が65歳以上になり、定年後の非正規雇用になった人が社会の大半になると、どういう事態になるか心配な面があります。非正規になると月収10万円未満が3分の2を占め生活水準が大きく低下します。今後、高齢者が非正規雇用に入ることになると、どう働いていけばいいのか。仕事なくなると解雇されリーマンショックのときはわずか半年で約20万人が解雇される事態が起きています。

■知識社会・知識労働者の社会

ドラッカーは知識社会・知識労働者が増大すると述べています。科学技術など知識・技能・技術

を持って働く人達が世界的に増えており、先進国では全労働人口の4割程度だと思われます。知識労働者は単に働くだけでなく、年金を投資し知識は社会の資本になるため資本家の側面を持ち、専門家としての生きがいを感じています。ですから、専門家としてのアイデンティティを持ち組織に帰属しないのです。

今後いろいろな組織が現れ、そこで人々が元気に生き生きと働くことが組織・企業にとって最大の関心になります。生産性を向上させ、従業員の幸せも会社・組織が見守ることになります。知識労働者は単に労働力を売るだけではなく専門性を発揮し社会に貢献することを生きがいと考えます。何のために働くのか、自分の幸せ・自己実現と一致するのか、或いは自分の専門性に権威が払われ継続的な研究を持つことを求めるような人達でもあります。

こうした知識社会は情報の移動に制限はなく誰もがビルゲイツのように成功して良い、それだけの可能性を持っていますが、知識は自分で獲得しなくてはならない、そういう時代です。

しかし、競争社会としての代償が伴います。ここでは過度のストレスが加わり、勝者と敗者が現れ、格差社会が進んでいきます。大人の世代の所得格差が次世代の教育投資の差になります。生活保護受給で子どもを大学に入れることは難しい状況にあります。そうした格差が世代間連鎖すること、また競争社会があれば40代・50代で誰もがバーンアウトするだろうといわれています。

■不確実性の時代

ドラッカーは、知識労働者は自らの生き方を考え、非競争的な生活やコミュニティーを作る必要があり、仕事以外の社会貢献・自己実現の場が必要だと述べています。経済的な発展だけを求めても本当に人は幸せになれるかどうか、ドラッカーは生きる方法としてこうした提言をしています。

この不確実な時代、地球環境が変化し更にグローバル化により経済がどんどん発展し、技術革新が進みます。その中で様々な危機が訪れます。そして私たちが働くことが大変難しい時代になるかもしれません。

今後持続可能な社会にどう転換していくのか思考が求められています。組織・個人は自分の生き方、或いは会社の利益、自国の発展だけを求めていたのでは立ち行かないかもしれません。

そうなると環境、地球や世界と調和していく事が求められます。物質的な豊かさだけではなく人間的な成長をもっと大事にする必要があるかもしれ

れません。物が豊かでなくても人の成長や幸せはあるものです。

「調和」と「統合」を考えると、及び過去・現在を基点とした未来が見えない時代に来ていますから未来を考え未来を創造することを誰もが考え始めなければならぬでしょう。

■不確実な時代を生きるには

この不確実な時代、誰も予想できない変化し続ける社会を生きることを考えますと、まずライフスキル・生きていくために必要な能力や力を育てること、及び何のために生きるのか、どんな状況でも生きていく、生きる意味・哲学をしっかり持つ必要があります。周りの価値観に基盤を置いていけば社会が変化したときに崩れる恐れがあります。

自分なりの価値観を内的キャリアと呼んでいますが、働くことの意味・意義・価値を重視した自分なりのキャリア開発を考えること、それから人間関係、安心でき、成長できる関係を構築することです。

人間は動物として70兆の細胞から成る身体を使い生きていますが、ときに過労死として働き詰めで死んでしまうこともあります。人間が精神的な活動を身体を超えて続けると、メンタルヘルス不全の問題が起きます。心身の健康を考えながら生きることも大事です。私は、ストレスコーピングの研究・実践をしていますが、誰もが元気で生きるためにこれらを個人でも考え、会社も支援していかなければならないと思っています。

ライフスキル

WHO(世界保健機関)

「ライフスキルとは、日常で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力である」

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 意思決定 | 2. 問題解決 |
| 3. 創造的思考 | 4. 批判的思考 |
| 5. 効果的コミュニケーション | 6. 対人関係スキル |
| 7. 自己認識 | 8. 共感性 |
| 9. 情動への対処 | 10. ストレス・コントロール |

ライフスキルですが、WHOが生きるために様々な問題に対処する能力が必要だと挙げています。

意思決定とは、私達にはたくさんの可能性があります、身体も心もひとつ、今の時間もここにしかなく、常に行動を選択しなければならないことです。人生はそうした意思決定の連続であると考えられます。問題が生じたときは解決するためにクリエイティブな思考が必要になりま

すし、客観的な批判的思考も必要です。人と暮らすなかではコミュニケーションスキルが必要です。人間はお互いに気持ちで動いています。感情を理解し合い、言葉や表情があります。嬉しいこと楽しいこと、苦しいことなど誰かに聴いてもらい、理解してもらえれば気持ちが落ち着きます。

その人間同士が上手くいかなくなると最大のストレスになります。職場の人間関係が必ずトップに来ます。孤独は最大の不安です。人と仲よく、理解され信頼されている仲間がいる。震災では「絆」という言葉が必ず言われます。自然の猛威の中、支えあうことで頑張る力が出ます。自分はどんな人間なのか、情動やストレスをコントロールできることが常にどの時代でも必要であるとWHOも示しています。

私達は生まれて死に至るまで、成長し発達します。生涯発達の中で小さいときは学校で学び卒業後は仕事を通じてキャリアを発達させていきます。人生の設計は自分でしなければいけません私達は組織を通して共同作業をしています。必ず果たすべき役割・仕事生まれ、世の中に役立つならば対価として収入があり生活を営むことができます。そうした関係性の中で生きていますが、それらを支える社会が大きく変化し続けて、組織も国も進む方向が見えない時代に入り、私達は翻弄され始めています。それは人生をかけてこうした社会を90年生き切らねばならない場といえます。環境が不確実になっていくほど環境をどう整えて行けばいいのかが皆が考えなければいけない時代なのかもしれません。企業・国・文化に依存していれば上手くいく時代ではなくなったのです。

■シャインの理論

シャインの理論(Schein,E.H.)

*キャリア——「人の一生を通じての仕事」
「生涯を通じての人間の生き方、表現の仕方」

*キャリア・アンカー:

個人のキャリアのあり方を導き、方向づけ、決定する自己概念(能力、欲求、価値)

- | | |
|-----|----------|
| ①専門 | ②経営管理 |
| ③安定 | ④企業家的創造性 |
| ⑤自律 | ⑥奉仕 |
| ⑦挑戦 | ⑧全体性と調和 |

エドガー・シャインは働くことの意味、内的キャリアを大事にした理論を述べています。

「職務と役割のプランニング」について、まず自分の職務役割を見直すことをします。会社や家

族など全ての利害関係者から自分がどんな役割を期待されているのかを分析するのです。次に環境の変化、技術・経済・政治・社会文化それぞれの次元で今後どのような変化が起きるか分析します。その変化が自分と周囲の人・組織がどのような影響を受けていくのか、その変化を分析し、将来必要とされる能力をプランニングします。それがキャリア開発であり、今ある能力を棚卸しして、今後起きる変化を予測し、そのために自分がどう適応するのかについてプランニングしなさいと述べています。

■ジェラッドの理論

ジェラッドはキャリアの考え方を大きく二つ示しています。一つは意思決定、もうひとつは積極的な不確実性を考えることです。

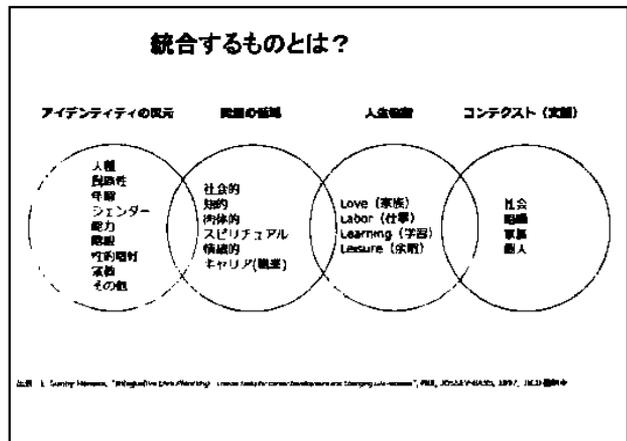
私たちは比較的偶然な出会いで人生が変わっていくことが多くあります。そうした不確実性からは未来の予測ができないので、考えようが無いといえそうですが、確率で見れば、高い未来もあり低い未来もあります。自分の描く理想の未来の前では多くは確率が低い状態にあります。しかし努力して知識や智恵を身に付け、人材ネットワークを形成し、経験を積んでいけば確率は高くなっていきます。未来をどう作り出すか。何もしなければ変わりませんが、努力をすればチャンスが訪れる機会は増えると思います。

■ハンセンの理論

ハンセンはアメリカでキャリア開発を指導している第一人者です。「統合的生涯設計理論」として変革してく時代の中で人生をどう考え、統合するのかを提案しています。キルト（パッチワーク）を例えにして、人生は様々な役割が合わさって「意味ある全体」になると人生を統合することを提案しています。

社会が変化し、働くことの意味が変わっています。人口動態や男性女性の生き方・組織も変化しています。個人には転機が訪れ仕事のパターンも変化します。自分の人生をどのようにプランニングするのか幾つかの提言をしています。

キャリアカウンセラーには大きな視点で見ることが要求されます。直接的思考でなく統合的、意味ある全体を作ることを提案しています。



新たな時代における重要な6つの人生課題

- ①グローバルな状況を変化させるために為すべき仕事を探す。
- ②健康(からだ、こころ、スピリット)に留意する
- ③家族と仕事を結びつける
- ④多様性と包括性を大切に
- ⑤Spirituality、人生の目的・意味を探求する。
- ⑥人生の転機(transition)と組織の変革に対処する。

アイデンティティ、私たちは多民族の中で暮らし、人生は社会的・知的・肉体的と成長していくものであり、その中で働き・家族・学習・余暇をどう自分の役割として満たしていくのか、そこには企業・社会・家族などの文脈があります。それらを自分としてどう見つめていくのが大事だとして「新たな時代における人生の重要な課題」として6項目挙げています。

■終わりに

地球規模で先が見通せない状況下にあって自分のことだけ考えていくなら取り返しのつかない状態になるかもしれないため、グローバルな視点でなすべきことをする。多様性(ダイバーシティ)をどう包括していくか対立にならないための統合が大事です。人生の意味・目的を探求し、変革に対処する、変化を恐れるのではなく、変化を先に見ながらどう進んでいくのか、その時に全体の調和を考えないと企業自体も生き残れなくなってきたりもするかもしれないのです。

ご清聴有難うございました。